

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成18年8月3日(2006.8.3)

【公表番号】特表2002-517245(P2002-517245A)

【公表日】平成14年6月18日(2002.6.18)

【出願番号】特願2000-553585(P2000-553585)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)
A 6 1 K 39/385 (2006.01)
A 6 1 K 47/48 (2006.01)
A 6 1 P 37/02 (2006.01)
C 0 7 K 14/47 (2006.01)
C 0 7 K 14/775 (2006.01)
C 0 7 K 19/00 (2006.01)
C 1 2 N 1/15 (2006.01)
C 1 2 N 1/19 (2006.01)
C 1 2 N 1/21 (2006.01)
G 0 1 N 33/68 (2006.01)
A 6 1 K 38/00 (2006.01)
C 1 2 N 5/10 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A
 A 6 1 K 39/385
 A 6 1 K 47/48
 A 6 1 P 37/02
 C 0 7 K 14/47
 C 0 7 K 14/775
 C 0 7 K 19/00
 C 1 2 N 1/15
 C 1 2 N 1/19
 C 1 2 N 1/21
 G 0 1 N 33/68
 A 6 1 K 37/02
 C 1 2 N 5/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成18年6月2日(2006.6.2)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ドメイン1₂ GPIポリペプチドを含むポリペプチドであって、ここで、該ポリペプチドが₂ GPI依存性抗リン脂質抗体に特異的に結合し、そしてここで、該ポリペプチドが、配列番号2(図1);₂ GPIのドメイン1、2、および3;ならびに₂ GPIのドメイン1、2、3、および4のポリペプチドからなる群からならない、ポリペプチド。

【請求項2】 前記ドメイン1₂ GPIポリペプチドが配列番号4(図2)のポリ

ペプチドからなる、請求項 1 に記載のポリペプチド。

【請求項 3】 前記ドメイン 1₂ GPI ポリペプチドが配列番号 5 ~ 12 からなる群より選択される、請求項 1 に記載のポリペプチド。

【請求項 4】 前記ドメイン 1₂ GPI ポリペプチドが配列番号 1 のほぼアミノ酸 1 ~ ほぼアミノ酸 66 を含む、請求項 1 に記載のポリペプチド。

【請求項 5】 前記ドメイン 1₂ GPI ポリペプチドが配列番号 4 のほぼアミノ酸 1 ~ ほぼアミノ酸 59 を含む、請求項 1 に記載のポリペプチド。

【請求項 6】 請求項 1 に記載のポリペプチドを含む、融合ポリペプチド。

【請求項 7】 請求項 1 に記載のポリペプチドを含む、重合体ポリペプチド。

【請求項 8】 前記ポリペプチドが T 細胞エピトープを欠失し、該 T 細胞エピトープが₂ GPI 依存性抗リン脂質抗体を有する個体において T 細胞を活性化し得る、請求項 1 に記載のポリペプチド。

【請求項 9】 請求項 8 に記載のポリペプチドの結合体。

【請求項 10】 前記結合体が標識を含む、請求項 9 に記載の結合体。

【請求項 11】 前記結合体が結合価プラットフォーム分子を含む、請求項 9 に記載の結合体。

【請求項 12】 前記プラットフォーム分子がタンパク様分子である、請求項 11 に記載の結合体。

【請求項 13】 前記プラットフォーム分子が非タンパク様分子である、請求項 11 に記載の結合体。

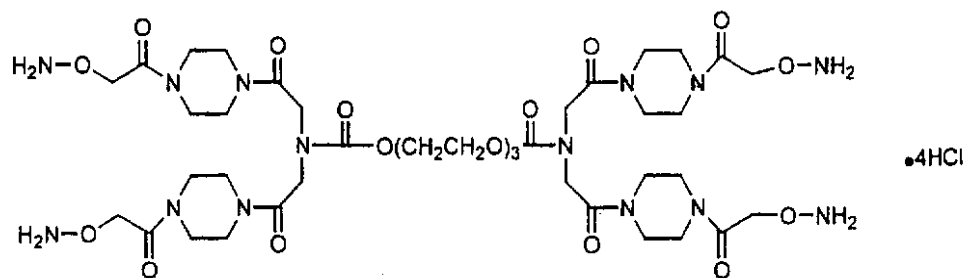
【請求項 14】 前記結合価プラットフォーム分子の集団の分子量が均一である、請求項 11 に記載の結合体。

【請求項 15】 前記プラットフォーム分子が、チオエーテル結合によってポリペプチドに結合される、請求項 11 に記載の結合体。

【請求項 16】 前記プラットフォーム分子が、オキシム結合によってポリペプチドに結合される、請求項 11 に記載の結合体。

【請求項 17】 前記プラットフォーム分子が、

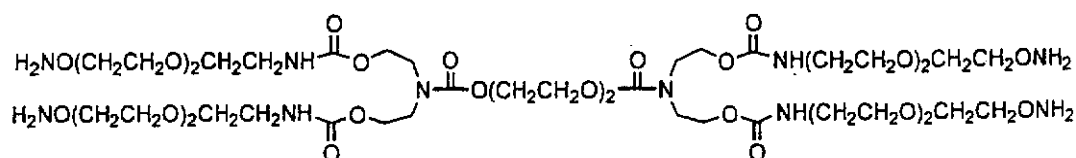
【化 1】



である、請求項 11 に記載の結合体。

【請求項 18】 前記プラットフォーム分子が、

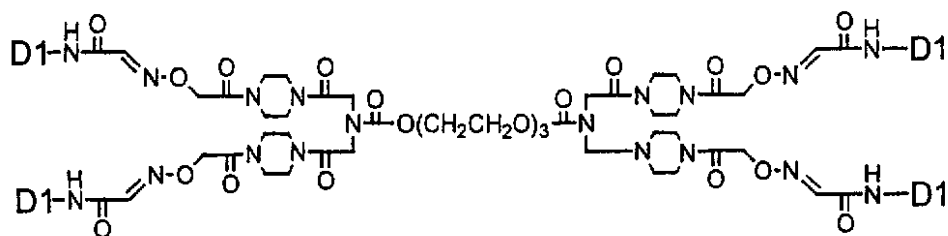
【化 2】



である、請求項 11 に記載の結合体。

【請求項 19】 前記結合体が、

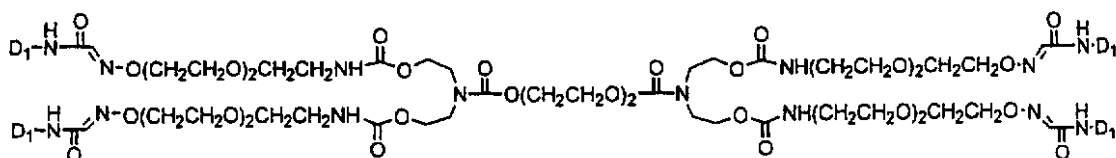
【化 3】



であって、ここで、D1が₂GPIドメイン1ポリペプチドである、請求項11に記載の結合体。

【請求項20】 前記結合体が、

【化4】



であって、ここで、D1が₂GPIドメイン1ポリペプチドである、請求項11に記載の結合体。

【請求項21】 請求項1に記載のポリペプチドをコードする、天然に存在する単離されたポリヌクレオチド。

【請求項22】 請求項1に記載のポリペプチドをコードする、天然に存在しないポリヌクレオチド。

【請求項23】 請求項8に記載のポリペプチドをコードする、天然に存在する単離されたポリヌクレオチド。

【請求項24】 請求項8に記載のポリペプチドをコードする、天然に存在しないポリヌクレオチド。

【請求項25】 請求項21に記載のポリヌクレオチドを含む、発現ベクター。

【請求項26】 請求項21に記載のポリヌクレオチドを含む、クローニングベクター。

【請求項27】 請求項21に記載のポリヌクレオチドを用いて形質転換された、宿主細胞。

【請求項28】 ドメイン1₂GPIポリペプチドの模倣物であって、ここで、該模倣物が、ドメイン1₂GPIポリペプチドが特異的に結合する₂GPI依存性抗リン脂質抗体に特異的に結合する、模倣物。

【請求項29】 ポリペプチドである、請求項28に記載の模倣物。

【請求項30】 T細胞エピトープを欠失し、該T細胞エピトープが₂GPI依存性抗リン脂質抗体を有する個体においてT細胞を活性化し得る、請求項29に記載の模倣物。

【請求項31】 適切なパッケージングにおいて請求項1に記載のポリペプチドを含む、ドメイン1₂GPIポリペプチドに特異的に結合する抗体を検出するための、キット。

【請求項32】 適切なパッケージングにおいて請求項1に記載のポリペプチドを含む、凝固を検出するための、キット。

【請求項33】 請求項8に記載のポリペプチドの有効量を含む組成物であって、ここで、有効量が寛容を誘導するために十分な量である、組成物。

【請求項34】 薬学的に受容可能な賦形剤をさらに含む、請求項33に記載の組成物。

【請求項 35】 請求項 1 に記載のポリペプチドの有効量を含む組成物であって、ここで、有効量が α_2 GPI 依存性抗リン脂質抗体を検出するために十分な量である、組成物。

【請求項 36】 サンプル中の請求項 1 に記載のポリペプチドに特異的に結合する抗体を検出するための方法であって、以下の工程：(a) 安定な抗原 - 抗体複合体の形成を許容する条件下で、該サンプル中の抗体を請求項 1 に記載のポリペプチドと接触させる工程；および (b) もしあれば、工程 (a) において形成される安定な複合体を検出する工程、を包含する、方法。

【請求項 37】 前記抗体が α_2 GPI 依存性抗リン脂質抗体である、請求項 36 に記載の方法。

【請求項 38】 安定な抗原 - 抗体複合体の形成を許容する条件下で、生物学的サンプルを請求項 1 に記載のポリペプチドと接触させる工程、およびもしあれば、該形成された複合体を得る工程を包含する、 α_2 GPI 依存性抗リン脂質抗体を精製する、方法。

【請求項 39】 請求項 8 に記載のポリペプチドの有効量を含む、個体において寛容を誘導するための組成物。

【請求項 40】 前記個体がヒトである、請求項 39 に記載の組成物。

【請求項 41】 請求項 11 に記載の結合体の有効量を含む、個体において寛容を誘導するための組成物。

【請求項 42】 前記個体がヒトである、請求項 41 に記載の組成物。

【請求項 43】 前記ポリペプチドが、配列番号 4 のほぼアミノ酸 1 ~ ほぼアミノ酸 60 の配列からなる、請求項 42 に記載の組成物。

【請求項 44】 凝固の α_2 GPI 依存性抗リン脂質抗体媒介を検出するための方法であって、以下の工程：

(a) 個体由来の適切な生物学的サンプルを使用して第 1 の凝固アッセイを実施する工程であって、ここで、請求項 1 に記載のポリペプチドが該アッセイに添加される、工程；

(b) 請求項 1 に記載のポリペプチドの非存在下において該個体由来の適切な生物学的サンプルを使用して第 2 の凝固アッセイを実施する工程；

(c) 工程 (a) および (b) の該アッセイ結果を比較する工程であって、ここで、該結果における差異が、凝固の α_2 GPI 依存性抗リン脂質抗体媒介を示す、工程、を包含する、方法。